

高温に伴う農作物等の管理対策

令和7年4月28日

新潟県農林水産部

新潟地方気象台が4月28日に発表した天気予報では、5月1日はかなり高い気温が予想されています（24～27℃）。

また、「1か月予報」では、向こう1か月の気温は高く、特に期間の前半はかなり高くなる可能性があります。

ついては、以下の管理対策を参考にして、農作物等の管理に十分留意してください。

なお、農作業時は熱中症に注意しましょう。

1 水稻

- （1）ハウス育苗では、ハウス側面を十分開放してハウス内温度の上昇を防ぐとともに、育苗箱の水分に注意し、水分不足による葉の萎凋や過湿による苗の徒長を防ぐ。
- （2）田植えに際しては、葉の萎凋が生じないように、ハウスからの苗搬出前や、水田への搬出後に必要に応じかん水する。
- （3）雑草の発芽や生育が高温により早まるため、雑草の発生状況を観察し、除草剤の散布適期を逃さないように注意する。また、高温時に薬害が発生しやすい除草剤もあるため、ラベルの注意事項をよく確認する。
- （4）ワキの発生による初期生育の停滞が見られた場合は、夜干し等で一時的に落水（ガス抜き）し、根腐れや生育停滞を防止する。

2 麦

- （1）高温や土壌の乾燥を受けた後に湿害を受けると成熟期に達する前に枯れる恐れがあるため、排水溝の再点検を行い、湿害を避ける。
- （2）小麦では高温により出穂期が早まるので、赤かび病防除や穂揃期追肥の適期を逃さないよう注意する。

3 園芸全般

- （1）病虫害発生予察情報に留意し、生育ステージに応じた適切な病虫害防除に努める。
なお、高温時の薬剤散布は、薬害発生の恐れがあるので避ける。
- （2）気温の上昇に伴い、施設ではコナジラミ類、アザミウマ類、ハダニ類、露地でアブラムシ類などの害虫が増加する恐れがあるので、発生状況に応じて適期に防除する。

4 野菜

(1) 施設野菜（トマト、きゅうり、いちごなど）

- ア 施設栽培は、必要に応じて換気や遮光を行い、高温や急激な温度変化を避ける。
- イ トマトは、着果負担によりガク枯れや葉先枯れが発生しているほ場では、枯れた部分から灰色かび病や葉かび病などの病害が発生しやすくなるため、換気により適切に温度・湿度管理をする。病害が発生した場合は、葉かきや花びら取り及び罹病葉の除去を行った後に防除を行う。
- ウ きゅうりは、急激な換気によるしおれや葉焼けに十分注意する。
- エ いちごは、吸水量の増加に対応するため、かん水頻度を多くする。高温下では果実の品質低下が著しいため、適期収穫に努めるとともに収穫後の取扱いを丁寧に行い、果実の損傷を防止する。
- オ ハウスすいかは、日中 30℃・夜間 15℃を目安に換気量を調整する。日中に葉のしおれが生じないように、晴天時には朝にチューブでかん水する。また、急激な換気による葉焼け及び脱水に注意する。
- カ 育苗中の苗類は、25℃を目安に換気を行いハウス内の温度を下げ、こまめなかん水や遮光により、しおれさせないよう管理する。

(2) 露地野菜

- ア 定植期のほ場では、高温乾燥により葉焼けや活着遅れが懸念されるため、適切にかん水する。なお、かん水設備がない場合は、定植時に植え穴にかん水する。
- イ 育苗中のえだまめは、は種直後の高温による発芽不良を防ぐため、遮光資材等を使用して温度上昇を抑える。
- ウ すいかのトンネル早熟作型及び密閉トンネル作型は、高温による葉焼けに十分注意する。
 - ① 晴れて気温が高くなることが予想される場合は、朝にチューブでかん水する。
 - ② 密閉トンネルでは、換気穴を増やす。
 - ③ トンネル整枝栽培の場合は、通常より換気量を多くする。
- エ ねぎのチェーンポット育苗の定植では、定植ほ場の土壌水分が少ない場合は、土壌の乾燥を抑えるため、定植日に定植溝を作る。
越冬ねぎ（春ねぎ）は、抽たい時期が前進する可能性があるため、適期収穫に努める。
- オ アスパラガスは、土壌の乾燥により萌芽の抑制や品質の低下を招くため、生育が停滞しないよう、必要によりうね間かん水を行う。
- カ さといもの定植後マルチ被覆栽培は、出芽した芽を焼かないようにほ場を見回り、芽を確認したら速やかにマルチ部分を切り開く。
- キ そらまめは、ほ場が乾燥しているようであれば、うね間かん水を行う。

5 果樹

- (1) 今後の高温で生育が早まる可能性があるため、生育に合わせた各種管理作業や防除等を適期に行えるよう計画的に準備を進める。
- (2) ぶどう、日本なし、いちじくなどの施設栽培は、ハウス内の高温による生育障害を受けやすいので、換気による適切な温度・湿度管理に努める。
- (3) 露地いちじくの凍害対策として被覆している資材は撤去するか、下側を開放し熱気を逃がし、高温障害防止に努める。
- (4) 本年定植した苗木は、根圏が狭く乾燥に弱いため、降雨がない状態が続く場合は適宜かん水する。

6 花き

- (1) 球根養成は、土壌が極端に乾燥しないように適切にかん水する。特に砂丘畑など乾燥しやすいほ場では、スプリンクラーで定期的にかん水する。
- (2) 切り花及び鉢物などの施設栽培は、曇天・雨天後の高温や強日射により葉焼け等の生理障害が生じやすいので、遮光資材の被覆や換気、循環扇による送風等により適切に温度・湿度管理を行う。また、土壌や用土が乾燥しすぎないように土壌水分に注意し、適切にかん水する。

7 畜産

- (1) 天気予報に注意し、急な気温上昇に伴う家畜疾病を予防するため、換気・送風・寒冷紗・屋根への塗装等の暑熱対策を早めに準備する。特に、換気扇、送風機は支障なく稼動するよう、ほこりを落とし、ベルトの張り、注油などの点検、電気系統の具合もチェックする（掃除をすることによって、風量も含めて効率がアップする）。
- (2) 野生生物の侵入防止策を徹底しつつ、畜舎の通風をよくするために開口部はできるだけ開放し、空気の流れを妨げるものを除去する。
- (3) 搾乳牛は畜舎内の温度が 20℃を超えたら暑熱対策を実施し、家畜の体感温度の低下に努める。
- (4) 家畜の観察を励行するとともに、餌槽や飲水設備をこまめに清掃・点検し、新鮮な飼料・飲水が確保されるように努める。

8 きのこと

- (1) ハウス内の高温による生育障害を防ぐため、換気による適切な温度管理に努める。
- (2) 換気をする場合は、害菌・害虫の進入防止対策に努める。
- (3) 害菌の早期発見に努め、汚染された菌床は速やかに撤去する。
- (4) 高温下では、きのこの品質低下が著しいので、適期収穫に努める。
- (5) 収穫したきのこは、速やかに保冷库等で保管する。
- (6) 仮伏せ中のほだ木をシート等で被覆している場合は、通風、日除け、散水などで温度管理に努める。
- (7) その他、極端な温度変化による影響の早期発見に努め、適切に対応するよう留意する。